

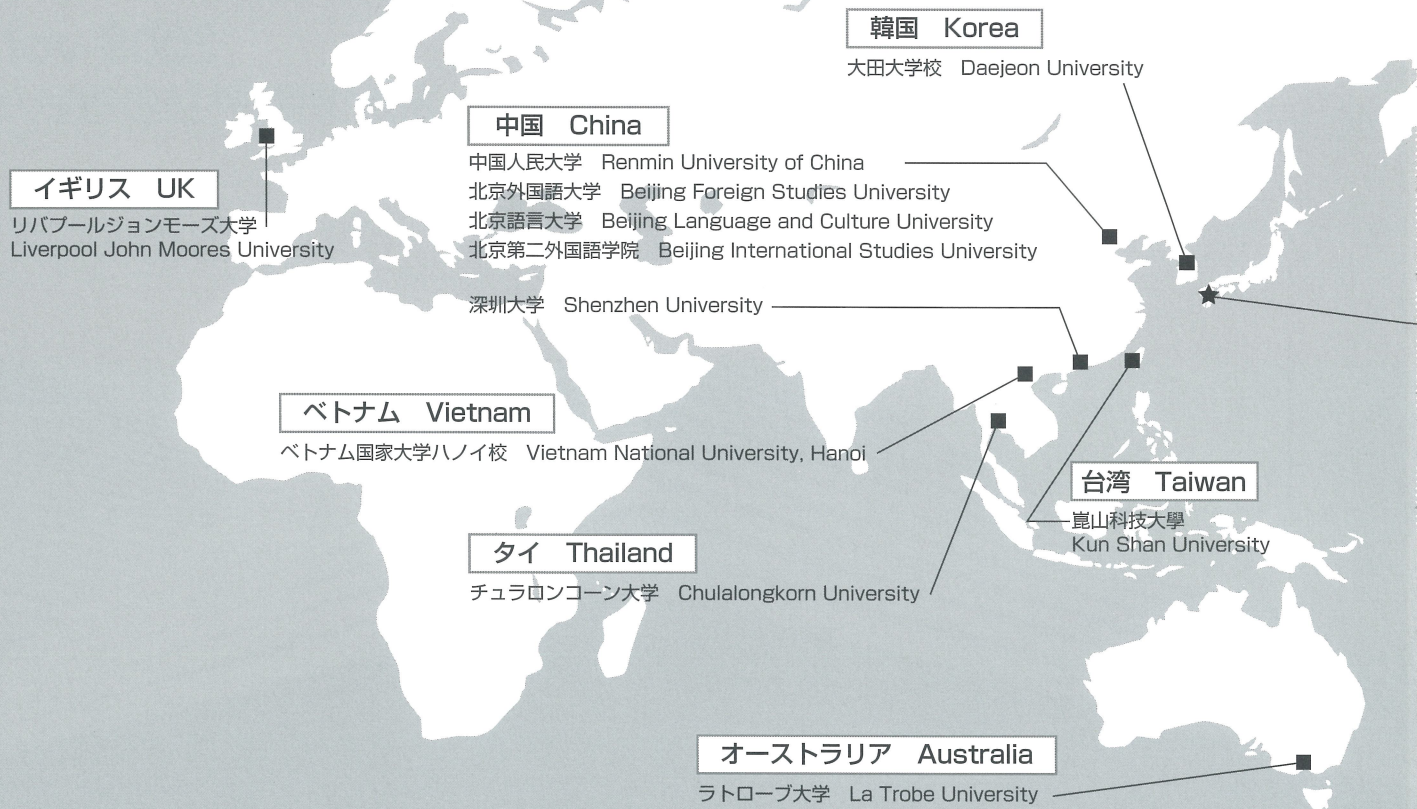
国際交流レター

2009 vol.31
International Exchange Letter



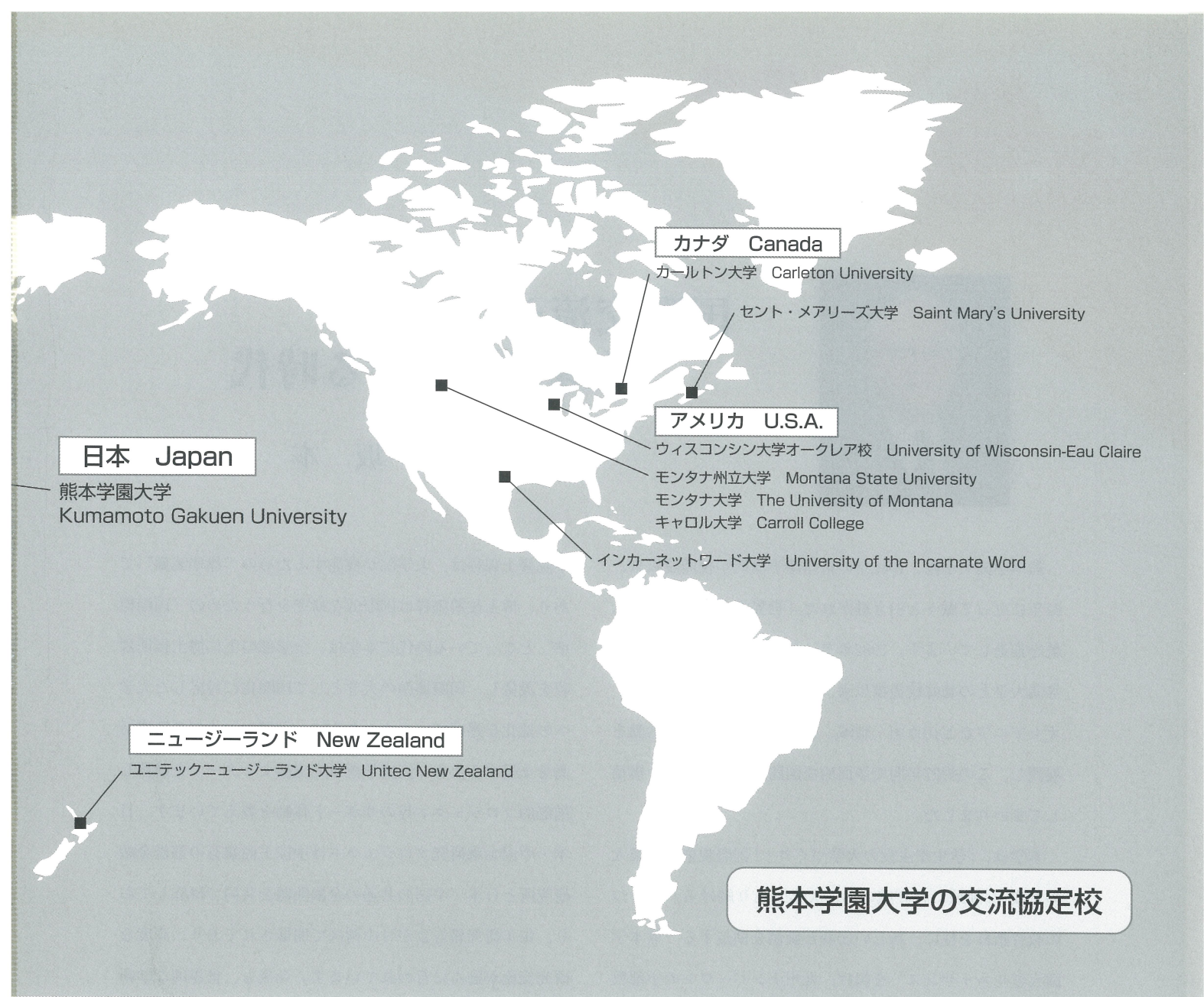
International Exchange Letter
国際交流レター

2009 Vol.31



目次

巻頭言	熊本学園大学 学長 坂本 正	2
TOPICS	新協定校紹介 国際共同教育研究フォーラム2009 国際学術コンファレンス 第19回外国人留学生弁論大会 保護者向け留学説明会	4
留学先でのカルチャーショック		6
アメリカ編	Stephen Murnion (モンタナ州立大学) VS 米田浩之 (経営学科 3年)	
カナダ編	Alexandria Dugal (セント・メアリーズ大学) VS 田代彩花 (英米学科 4年)	
イギリス編	Leanne Whitman (リバプールジョンモーズ大学) VS 渡辺美里 (英米学科 4年)	
オーストラリア編	Rory Hudson (ラトロープ大学) VS 石松由衣 (英米学科 4年)	
ニュージーランド編	John Collins (ユニテックニュージーランド大学) VS 早川千尋 (福祉環境学科 4年)	
韓国編	柳賢淑 (大田大学校) VS 山本洋子 (東アジア学科 4年)	
中国編	崔明清 (北京第二外国語学院) VS 池田昌隆 (国際経済学科 5年)	
ベトナム編	Nguten Thi Trang (ベトナム国家大学ハノイ校) VS 本岩緑 (国際経済学科 3年)	
タイ編	Yada Wongwudthianan (チュラロンコーン大学) VS 田代里紗子 (国際経済学科 2年)	



日本 Japan

熊本学園大学
Kumamoto Gakuen University

カナダ Canada

カールトン大学 Carleton University
セント・メアリーズ大学 Saint Mary's University

アメリカ U.S.A.

ウィスコンシン大学オークレア校 University of Wisconsin-Eau Claire
モンタナ州立大学 Montana State University
モンタナ大学 The University of Montana
キャロル大学 Carroll College
インカーネットワード大学 University of the Incarnate Word

ニュージーランド New Zealand

ユニテックニュージーランド大学 Unitec New Zealand

熊本学園大学の交流協定校

交換教員	韓 云 愚 大田大学校教授 (韓国・大田広域市) 柳 木 华 深圳大学副教授 (中国・深圳市) 张 梅 深圳大学講師 (中国・深圳市)	15
学園大で頑張る 私費留学生インタビュー	Tangcangco Dennis (商学部ホスピタリティ・マネジメント学科4年) 李世恩 (国際文化研究科国際文化専攻修士課程2年)	18
卒業生紹介	川畑 秀貴 (熊本学園大学商学部商学科卒業)	20
国際交流写真館		22
DATA	2009年 海外往来 2009年度 国籍別外国人留学生数 2009年 留学生参加行事 交換教員往来 2009年度 研修団往来	24



国際交流が 地域貢献となる時代

熊本学園大学 学長 坂本 正

熊本学園大学は、1942年の東洋語学専門学校開設以来、67年に亘って脈々と引き継がれた「世界志向の教育」の伝統を推進しています。1982年アメリカ・モンタナ州立大学等諸大学との姉妹校提携以来、現在では、欧米、アジア、オセアニアなど10カ国・地域、19大学との国際交流活動を展開し、この約27年間で多面的な国際ネットワークを構築してまいりました。

本学は、「学生が主役の大学づくり」「国際規格の職業人の育成」「地域に存在感のある大学であり続ける」の3つの教育指針を柱に、新しい伝統と価値を創造する“熊本学園大学ルネッサンス”を掲げ、九州ナンバーワンの学部教育の実践をしております。現在は「熊本学園大学ルネッサンス躍進の年」として位置付け、さらなる魅力ある大学づくりに取り組んでいます。

グローバル化の進展の中で、大学院をベースにした国際交流がこれからの新しい潮流になっています。大

学院修士課程は、大学院が機能するための“標準装備”であり、博士後期課程は国際的な研究を行うための“国際標準”となっている時代に本学は、全学部の上に博士後期課程を設置し、国際標準の大学として国際化に対応した大学への進化を遂げています。さらに、国際レベルでの研究活動を支援するため「高度学術研究支援センター」を設置し、国際的プロジェクト等のサポート体制を整えています。日本・中国金融研究プロジェクトは中国工商銀行の都市金融研究所と日本・中国の共通の金融問題を共同で研究しており、毎年研究報告会が日中両国で開催されており、高度な研究交流が盛んに行われています。今後も、世界的な学術交流の新たなニーズに対応するため、さまざまな課題にも取り組みたいと考えています。

学部をベースにした国際交流では、交換留学制度、短期交換留学制度、短期語学ホームステイプログラム、学生研修団等の多彩な留学・研修プログラムを設け、向学心あふ



留学間近の交換留学生との懇談



中国工商银行との研究報告会



れる学生を世界各地に派遣しています。さらに現在、日本語による短期留学制度という新しい国際交流プログラムを提案しており、中国・南京師範大学とドイツ・デュッセルドルフ大学と交流の準備を進めております。昨年の9月には、この3大学の交流を記念して、福岡と熊本にて環境問題をテーマに国際共同教育研究フォーラムを開催しました。留学した学生は、海外経験を積むことによって、視野が広がり、飛躍し、目を見張るばかりに大きく成長します。また、本学が受け入れる留学生も世界各国から数多くキャンパスで学んでおり、多国籍の教員も学生を指導しており、国際化の雰囲気にもち溢れている本学のキャンパスは小さな地球であると言えます。

現在は、100年に一度という世界的な経済不況と深刻な金融危機と新型インフルエンザの流行という環境の中で、国際交流も厳しい状況にありますが、積極的に国際交流プログラムを活用したいという学生の熱意は高くなっていま

す。本学は、全学あげて学部・学科の特性を活かしながら、国際的な視野を持ち、新鮮な若い感性で、短期ではあっても日本語をベースに海外でのプログラムを体験できるシステムに新しいルネッサンスを期待しています。地域でのフィールド学習の国際版です。この国際的なフィールド学習と体験がキャンパスライフをさらに豊かにし、その成果が地域に還元されることを期待しています。「国際規格の職業人の育成」が「地域に存在感のある大学」のコアとなる時代だと考えています。

このような高度な教育・研究環境のもとで、今後も海外との交流大学・研究機関等のさらなるパートナーシップにより、グローバルな時代に対応できる「国際規格の職業人の育成」に努めたいと思います。そして、国際交流がさらに充実・発展することを祈念し、国際交流レターの巻頭言といたします。



中国、ドイツとの3大学交流



国際共同教育研究フォーラム2009(福岡会場)



新協定校紹介 コンサン カギ ダイガク 崑山科技大學 (台湾)

台湾、台南県の永康市に1965年に創立された私立大学。工学部、ビジネス経営学部、人文科学部、クリエイティブ・メディア学部、情報技術学部の5学部から成り、学生数は約14,000人。

平成22(2010)年1月29日(金)に崑山科技大學において本学との大学間交流協定書の調印式が執り行われ、平成22年度より交換留学生の募集を開始する予定。



「国際共同教育研究フォーラム2009 持続可能な地域社会づくりにむけて」の開催

「国際共同教育研究フォーラム2009～持続可能な地域社会づくりにむけて」が、平成21(2009)年9月15日福岡国際会議場および、9月17日本学の14号館高橋守雄記念ホールにて開催された。これは環境保全への取組みを考えたフォーラムで、ドイツ・デュッセルドルフ大学と中国・南京師範大学の協力を得て開催されたもの。大学や企業などから約500名が参加した。

国際学術コンファレンス開催 (ユニバーシティ・コンファレンス委員会主催)

本学と韓国の姉妹校・大田大学校との間で第6回を数える「国際学術コンファレンス」が「変動する東アジア - 経済・福祉・文化の新しい方向と課題-」と題し平成21(2009)年11月7日(土)に本学11号館で開催された。今回は初めての試みとして、研究発表の後のシンポジウムを一般公開とし、大学内外からの参加者は70名を越えた。報告者とテーマは以下の通り。

セッション1：雇用問題と食生活

発表者：Jeffrey Morrow (本学経済学研究科
経済学専攻博士(後期)課程在学)
王 秀 瓊 (大田大学校教授)

セッション2：青少年問題

発表者：山崎 史郎 (本学社会福祉学部教授)
南 美 愛 (大田大学校副教授)

セッション3：環境問題

発表者：藤本 延啓 (本学社会福祉学部講師)
韓 云 愚 (大田大学校教授)

シンポジウム：「国際金融危機の日韓両国への影響と今後の課題」

報告者：金 炳 民 (大田大学校教授)、岡本 恵也 (本学経済学部教授)
コメンテータ：嵯峨 一郎 (本学商学部教授)、金 栄 緑 (本学経済学部准教授)





第19回外国人留学生弁論大会

毎年恒例の外国人留学生弁論大会が2009(平成21)年6月13日(土)、学生会館4階多目的ホールで開催された。会場は、学生や外国人留学生、学内関係者のみならず、地元住民や地元の学校生徒まで賑わった。

本学には11カ国112名の留学生在籍(平成21年5月1日現在)しており、今年は6カ国9名の留學生が参加し、熱弁を振るった。

最優秀賞は、韓国・大田大学校からの交換留学生、尹泰重さん。韓国と日本のおしゃれや外見の意識の違いについて、「人との交流はただ楽しみだけではなく、自分の国のこともよく考えさせられるきっかけになるのが魅力だ。」とユーモアを交えながら語り、聴衆の笑いを誘った。尹さんは、聴衆が選ぶオーディエンス賞も見事受賞した。



<後列左から>ファム・ホン・ハン、肖詩亮、ヤーダー・ウォンウッチェアナン、レイチェル・ルイス、エリン・フレティ、何金摯
<後列左から>中野裕治国際交流委員長、アレクサンドリア・ドゥガール、尹泰重、曹沁鈺、松永築熊本県国際室主幹(審査員)、松本祐一熊本市国際交流課課長(審査員)

審査結果

最優秀賞・オーディエンス賞	東アジア学科4年	ユン テ ジュン 尹 泰 重	Korea (韓国)	「私が感じた韓国と日本」
優秀賞	国際経済学科3年	アレクサンドリア ドゥガール Alexandria Dugal	Canada (カナダ)	「私の生まれた街、ハリファックス」
	国際経済学科2年	ソウ シン キョク 曹 沁 鈺	China (中国)	「面白い発見をしましょう」
敢闘賞	英米学科3年	エリン フレティ Erynn Flaherty	USA (アメリカ)	「私のヒーロー」
	経営学科3年	ショウ シ リョウ 肖 詩 亮	China (中国)	「楽しんでゆく毎日」
	国際経済学科4年	ヤーダー ウォンウッチェアナン Yada Wongwudthianan	Thailand (タイ)	「言語の意味」
奨励賞	英米学科3年	ファム ホン ハン Pham Hong Hanh	Vietnam (ベトナム)	「友情」
	国際経済学科3年	レイチェル ルイス Rachel Lewis	Canada (カナダ)	「私と日本語」
	商学科1年	カ キン ケキ 何 金 摯	China (中国)	「マスク」

保護者向け留学説明会開催

交換留学、短期交換留学内定者の保護者向けの留学説明会を、平成21(2009)年11月22日(日)本学14号館で開催した。

国際交流担当者が交換留学制度や危機管理に関して全体説明した後、英語圏とアジアにグループを分け、具体的な説明を行った。

保護者そろっての参加も多く、質問も多く寄せられ、関心の高さがうかがわれた。



坂本正学長の挨拶



— アメリカ編 —

Party Time

スティーブン マーニオン
Stephen Murnion

【2008年9月～2009年7月アメリカ・モンタナ州立大学交換留学生】

Though many differences exist between Japan and America - culturally, socially, and politically - one of those that slowly made itself prominent to me was that of the way people drink socially. In America, college parties are usually at rented houses, where people binge drink to excess and try to "play the field" as much as possible. It is not uncommon to see fights at these house parties, both between men and women. I've never been in a fight at one of these, thankfully, but it almost happened a few times. In contrast, social drinking in Japan is a much happier event, where people seem to simply want to talk with each other, make merry, and release stress. I never once saw a fight in the ten months I was studying in Japan, which I am grateful for. Why this difference exists is a mystery to me, but it was a very interesting discovery when it finally crept up on me when I was preparing to head back to America.



フィールドトリップで行ったMt.Aso(筆者は右端)

学びと嬉き戯ぎ

よねだ ひろゆき
商学部経営学科3年 米田 浩之

【2008年8月～2009年5月アメリカ・ウィスコンシン大学オークレア校に交換留学】

カルチャーショックという言葉を目にすると否定的な印象を受けます。しかし私は留学先で発見した、文化や習慣、意識の違い、それによる驚きを、端的に動揺として感じたままにしておくのではなく、良い刺激として受け止め、消化するように努めたので、アメリカの文化や習慣の中に表れる日本とのギャップを楽しめたように思います。

日本の学生生活とアメリカの学生生活の違いで強く印象に残っていることは、私が留学していたウィスコンシン州大学オークレア校では、大学の周辺には大きな街が無いのですが、寮生が非常に多いということもあって、イベントが非常に多いということです。

学内では度々何かしら催しがあって、例えば、バンドの演奏、のど自慢大会、Tシャツや顔にペイントするイベント、バイキング、フリーマーケット、留学生用のパーティー、三百人規模での野外映画鑑賞、さらに季節の行事では、ハロウィンや感謝祭などがありました。

課題が早く終わって時間的余裕が得られた時は、私もそういった行事に積極的に参加していました。そしてそれを通して多くの友人を作ることができました。

しかし、これらイベントが多く催されるのにも関わらず彼らが学生として成り立つ理由は、皆が学習と遊びに対する明確なけじめを持っているということに帰結します。

前記したように、非常に活発に遊ぶアメリカの学生たちですが、彼らは学習に対しても極めて真摯な姿勢を示しています。その証拠として、オークレア校の図書館の席は常に満員のような状態でした。それに彼らは学習の時のチームワークにも優れています。図書館や学習ルームでは、何人かで助け合って学習している姿を何度も見ました。私も度々、日本語を学んでいる友達に、日本語を教え、そして私が英語を教えてもらおうというような事をしていました。

私がアメリカでの学生生活で発見した違いというのは、学習する時には学習する、遊ぶ時には遊ぶ、という切り替えるの上手さとその情熱でした。



友人宅でのハロウィンホームパーティ(筆者は右端)

— カナダ編 —

Differences between Canada and Japan

アレクサンドリア ドゥガール
Alexandria Dugal

【2008年9月～2009年7月カナダ・セント・メアリーズ大学交換留学生】

It was my dream since high school to visit Japan and I was so excited when I got the chance to come. I had learned about Japan and I believed I was ready for any culture shock. However there were many things I learned, about how Canada and Japan are different! It was interesting to me how I could find inexpensive, but delicious Japanese foods I had never tried—like gyuudon, sukiyaki and curry rice. In Canada, restaurants are usually very expensive. Especially Japanese food! In Canada, we usually don't ride bikes because there are many hills and cars in my city. I enjoyed riding my bike in Japan to school, to buy groceries, and to go downtown. It was very convenient and quick. Although it was difficult in the rain! It was also interesting to experience Christmas and New Years in Japan. The customs were very different from how we experience these holidays in Canada. It was also a learning experience to visit my friends' houses — even the design of houses are different than my country. I really missed central heating in winter in my friends home in Fukuoka! Overall, I learned so many things about Japan that I never knew before. My trip to Japan was such a wonderful learning experience and I had so much fun and made many friends. I will never forget my time in Kumamoto!



仲良しの留学生仲間と(筆者は右)

思いやりと感謝

たしろ あやか
田代 彩花
外国語学部英米学科4年

【2008年9月～2009年4月カナダ・セント・メアリーズ大学に交換留学】

カナダから日本に帰国してもう半年が経ち、時の流れの早さを感じるとともに、最近、カナダで過ごした時のことを思い出して懐かしさに浸ることも少なくありません。

私がカナダで過ごして知った日本とは違う習慣の1つは、カナダでは、建物から出入りする際に自分の後を確認し、人がいる場合、長めに扉を支えて次の人の出入りがしやすくするという習慣です。次の人が扉まで少し距離がある場合でも、ドアを支えたまま待っていてくれることもあります。そんなときは一言「ありがとう」と声をかけます。それまでは、自分の後のことなど気にしていなかったので、身につくまでは後ろを見ずに自分だけ通りすぎてしまうということもありました。

もう1つはバスの乗降車の際のことです。留学中よくバスを利用していましたが、カナダでは乗降車のときのドライバーへの声かけが、日本よりも頻繁であると感じました。特に降車の際、ほとんどの人が「ありがとう」と声をかけて降りていました。運転手の方にお礼を言うということは、日本でも見られない光景ではないですが、高校からずっとバス通学してきた自分でも数えるほどしか経験がなかったので、驚き、感謝に対する意識の違いを感じました。どちらの行動も今では私の習慣になり、日本にいても必ずやっています。

考えてみると、ほんの少し人を思いやる気持ちや、感謝する気持ちがあればすぐにできる行動だと思います。実際、留学するまでどちらもしていなかったというのが事実ですが、異国でその土地の習慣にふれることで、自分の行動を振り返り、反省し、行動することができました。語学向上はもちろん、このようなことに気づかせてくれた素晴らしい8ヶ月でした。



ルームメイト達と(筆者は右)



Leanne's experiences in Kumamoto

リアン ウィットマン
Leanne Whitman

【2008年9月～2009年7月イギリス・リバプールジョンモーズ大学交換留学生】

I had an amazing year studying abroad at Kumamoto Gakuen University. There are many differences between Japan and England, and between my home university at Liverpool John Moores and Kumamoto Gakuen University.

I loved living together with all of the foreign exchange students at the university's dormitory. This was a warm, safe environment, as well as being a great place to meet people and make friends. Living with people from all over the world allowed everyone to learn so much more. For example, Japanese friends would come over to help us with our language, my Japanese, Korean, and Thai friends would always cook delicious meals, and the dormitory's two managers would be there to help us with any problems. In Liverpool I live in a 3 bedroom flat so it was a different experience from what I have at home.

It was also an amazing experience when other exchange students and I got the opportunity to wear traditional Japanese kimonos. We were able to see how they are put on and how much effort it takes! I did not know before I had to wear one how hot it was under all of the many layers and how tight the belts were pulled! However, I think we all really enjoyed this Japanese cultural experience!

There were of course many more experiences and differences between Japan and England. Altogether, during my year in Kumamoto, it was great being able to put into practice my knowledge of the Japanese language and culture. Furthermore, I learnt much more than I thought I might, about Japan and also importantly about myself.



阿蘇へのフィールドトリップにて

My first surprise in Liverpool

わたなべ みさと
渡辺 美里
外国語学部英米学科4年

【2008年9月～2009年5月イギリス・リバプールジョンモーズ大学に交換留学】

凍えそうに寒い夜、楽しそうに騒ぎながら街中を歩いていくのは、キャミソールにミニスカートそれにハイヒールをはいた女の子たち。思わず目を疑う光景。それが私が最初に衝撃を受けたイギリスと日本の違いでした。

初めてその光景を目にしたのは、初めて夜の街へ繰り出した時です。その日はとても寒く私はコートを着ていました。リバプールは風が強くて夜になるとけっこう冷え込みます。友達と「今日も寒いね」などと話しながら歩いていた時でした。目の前をものすごく薄着で真夏のような格好をしている女の子数人が通り過ぎていきました。私はビックリしました。そして街を歩いていくと薄手のトップスにミニスカートとハイヒール姿の女の子がいっぱいいたのです。昼間とは全然違う光景でした。昼間はみんなトレーナーにジーンズなどラフな格好の子たちばかりで、足を出して歩いている子やハイヒールをはいている子はいませんでした。寮へ帰り早速フラットメートのイギリス人の女の子に、なぜイギリスの女の子たちはあのような格好をして夜歩くのか聞いてみました。その答えは「かわいいからだよ」というものでした。私は信じられませんでした。ただかわいく見られたいから寒いのにあんな格好をするものだろうか、しかも夜だけ、と思いました。またその他の理由に「クラブへ行きダンスをするとき暑くなり邪魔だから」「男の子にジャケットを貸してもらいたいから」というものまでありました。

これは私の留学中の9月から5月まで、雪が降りそうなどんなに寒い時でも続きました。おしゃれしたい女の子の気持ちはどこの国でも同じだけど、おしゃれの仕方自体は国によってこんなにも違うものなのか、と異文化を感じた最初の出来事でした。



憧れの街、ロンドン!!

— オーストラリア編 —

日本とオーストラリアの大学生活の違い

ローリー ハドサン
Rory Hudson

【2008年4月～2009年2月オーストラリア・ラトロブ大学交換留学生】

私が日本行く前は日本の大学生イメージは大体まじめな人ばかりと思っていました。欧米では日本の教育のスタイルはオーストラリアとかと全然違うと言われてます。例えば日本の学生にとって人生の一番大切な事は入学試験です。その試験で成功するために皆は一緒に頑張っていると思いました。

でも日本へ着いた後、私のイメージとは違うことに気が付きました。日本の学生はオーストラリアの学生と似ている気がしました。どちらの国にもまじめな人々はいるし、もっとリラックスが好きな人もいます。自分は全然まじめじゃないから日本で私と同じ悪い学生に会った事が良かったと思います。

学生等の性格の違い以上に La Trobe 大学と学園大学の日本語の授業には違うところがたくさんあります。La Trobe では言語の授業は1週間に5時間ぐらいです。私のコース (Bachelor of Arts) は学校にいる時間は12時間ぐらいです。熊本学園大学では日本語の授業だけで15時間ぐらいありました。その違いは大学が何に力を入れているかで作られていると思います

オーストラリアには "Individual Study" と言うきまり文句があり、それで学ぶ事はその大学の学生の責任です。それで大学にいる時間は学園大より少ないですが、宿題や読み物の方は多いんです。外国の大学や留学の事は自分の国から大変に見えますがいい経験のためになんでもやってみればいいと思います。



体育祭にて(筆者は右から2人目)

ただ違うということ

いしまつ ゆい
外国語学部英米学科4年 石松 由衣

【2008年2月～2008年12月オーストラリア・ラトロブ大学に交換留学】

私が約10ヶ月を過ごしたオーストラリアは、自然が豊かで、ゆったりと時間が流れているような場所でした。日本でだったらすぐにバスを使うだろうなというような距離でも、オーストラリアでは不思議と「のんびり歩いていこうかな」という気分になって、やたらと歩くことが多かったような気がします。毎朝学校へ通う際も、駅までの道のりはいつも散歩感覚で歩き、すれ違う人々と挨拶を交わしながら行くのが一つの楽しみでした。休みの日などは父親と子供たちが一緒に散歩していたり、ボール遊びをしている姿もよく見かけ、家族で過ごす時間というのをとても大切にしているのだなということも感じました。オーストラリアで見た空の広さも忘れられません。夜にはプラネタリウムでしか見たことがないような数多くの星が空に輝き、いつまでも飽きることなく見上げていられる程でした。そのような国全体に漂っているのんびりとした空気というのが、オーストラリアの最大の魅力なのではないかと思います。

しかし私は、帰国してみて初めて、日本という国の持つ魅力も感じるようになりました。礼儀正しさと行き届いたサービス、時間に対する正確さなど、世界のどの国にも負けない良さが日本にもあります。

どの国がいいとか悪いということではなく、どれもオリジナルなものであり、他とは違うということ。それがきつと異文化というものなのだろうと感じました。二つの国の持つまったく違った魅力というものに気が付けた、それだけでも大きな収穫だったと言えるかもしれません。



教室でクラスメートと(筆者は前列左から2人目)



課外活動と職場現場の繋がり～ ニュージーランドと日本の違い

ジョン コリンズ
John Collins

【2001年9月～2002年2月ニュージーランド・ユニテックニュージーランド大学交換留学生】

日本とニュージーランドは非常に似ています。両国はアジア太平洋地域に位置し、四季折々の美しさを感じることができる、大自然に恵まれています。両国の国民は優しく、そして島国であることから、国境を有する国の人よりも、内向的なところがあります。しかし、歴史の長い日本とまだまだ歴史の短いニュージーランドの間には、生活、文化、仕事や家族に対する価値観など異なるところも少なくはありません。

大学2年生のとき私は6ヶ月間、交換留学生として熊本学園大学で勉強することが出来ました。その半年の間に得た知識や経験を生かし、無事にニュージーランドの母校を卒業して、現在は日本の大学職員として、翻訳やWEB作成等を担当しています。

熊本学園大学での学生生活においても、現在の職場現場においても、日本とニュージーランドには相違点があると思います。熊本学園大学では、日本人学生が学園祭やスポーツ大会等に積極的に参加、大学全体がひとつにまとまり「母校を愛する」姿に驚きました。これはニュージーランドの多くの大学生にはそれほどありません。自分の時間を犠牲にするほど課外活動に真剣に取り組む日本人学生の「情熱」は、ニュージーランドの学生には乏しいのではないかと思います。実は当時、そこまで課外活動に打ち込む必要性を理解することが出来ませんでした。日本の職場に勤め始めてから、グループ間の「友愛」を大切にしながら、メンバーがひとつの「心」になって目標に向かうことの重要性や、日本の大学生のサークルや課外活動に対する価値観を認識するようになりました。サークルや課外活動に積極的に参加しない多くのニュージーランドの大学生にとって、熊本学園大学から学ぶことは多いと思います。



勤務先の大学にて

留学を通して

社会福祉学部福祉環境学科4年 ^{はやかわ ちひろ} 早川 千尋

【2009年2月～2009年9月ニュージーランド・ユニテックニュージーランド大学に短期交換留学】
※5月～7月は、新型インフルエンザによる帰国命令で一時帰国

今回、留学体験を通して私が感じた日本人とニュージーランド人の人との関わり方の違いを書きたいと思います。私の大きな目標の1つは、「英語で口ゲンカができるようになること」。すなわち、自分の気持ちや考えをはっきりと英語で伝える事ができるようになることでした。そして2つ目の目標が、「人見知りの性格を打破し、自分から積極的に話しかける」でした。

この目標を持って、人と話すことに対して意識をし過ぎてカチコチに緊張してしまっていた私に、初日から大きな衝撃がありました。それは、誰もがずっと知り合いであったかのようにとてもフレンドリーだということです。

日本人は、まず形式を重んじる人種だと私は思います。そのため、特に電車、バス、ショップ等のスタッフには必ずマニュアルがあり、丁寧な受け答えがあります。それは、とても丁寧に対応してもらっているという気持ちがして素敵なことです。一方ニュージーランドには、そんな丁寧な言葉や礼儀はありません。それでも、私が日本よりも居心地がいいと感じたのは、形式ではない心からの笑顔や簡単でも嬉しい些細な思いやりの一言がいつも添えられるからだと思います。何気ない、けれど特に嬉しかった言葉は、電車を降りた時に、車椅子の上げ下ろしを手伝ってくれた車掌さんにお礼を伝えた際、車掌さんが笑顔で返してくれた“Come again！”でした。難しい言葉遣いではなく、簡単でも誰かを幸せな気持ちにすることのできる言葉が言えることが何よりも大切なのだとその時強く感じ、英語を話すことに恥ずかしさや不安はなくなりました。

このきっかけが目標の達成において大きな力になったことは間違いありません。英語だけでなく日本語についても考えさせられた留学経験だったと思います。



日常の休み時間(筆者は前列右から2人目)

住んでわかった日本のこと

ユ ヒョン スク
柳 賢 淑

【2009年3月～2010年2月韓国・大田大学校交換留学生】

今回の留学の理由は、旅行という短期間ではなく、生活をする中で日本という国を知りたかったからです。

ホームステイをして一番驚いたことは、同じお風呂を家族みんなが使うことです。韓国では基本的にシャワーを使い、湯船につかりたい人はその人が湯を張るので、皆が同じお湯を使うことはありません。それから、お風呂とトイレが別ということにも驚きました。韓国ではトイレ・風呂・洗面台が同じ空間にあります。手を洗いたい時も「トイレはどこですか」という聞き方をします。

熊本には以前2回旅行で来たことがあり、その時のホームステイでは、その家庭だけが特殊なのだと思っていました。でも今回の留学で再度ホームステイをしたり、友人の家を訪ねたりする中で、それが日本では普通だったのだと知りました。

今は慣れたので何とも思わなくなり、逆に韓国でトイレとお風呂が一緒であるのが不便と感ずることがあるくらいです。

日本ではお風呂文化が発達していて、ジャグジーがある湯船があったり、入浴剤も豊富でよく使ったりします。ホームステイ先で入浴剤を「選んでね」と言われてびっくりしたことがあります。さながら温泉のようでした。

また、トイレに関して言えば、便器の背もたれの部分に手洗いがあり、それで手を洗うということにも驚きました。考えてみれば、トイレの後ろの手洗いや一緒の同じ湯のお風呂に入ることは水の節約となり、先進国として見習うべきことも多いです。

旅行者としては感じられなかった、生活の中で知った「日本」の一部です。



熊本城にて(筆者は左)

韓国で感じた日本との違い

やまもと よう こ
外国語学部東アジア学科4年 山本 洋子

【2008年3月～2009年2月韓国・大田大学校に交換留学】

韓国に足を踏み入れ、まず思ったことは活気があるということだ。駅でも市場でも学校でもとにかく元気がいい。声が大きいはっきり話す韓国人の話し方がそう思わせているのかもしれないが、日本人の内気な性格と違い韓国人は本当に迫力があつた。

留学生活を送っていくなかで知つた韓国との文化の違いは、お酒の習慣だ。韓国人は平日でも休日でも関係なく毎日のようにお酒を飲む。そしてお酒が本当に強い。韓国人はこうしてお酒を飲むことで本音を言い合い、喧嘩し、分かち合い仲を深めようとする。日本人はお酒を飲まずとも話し合いはできると考え、仲を深めることもできている。そこが韓国人との違いで、お酒が飲めない私は話し合いのときなどで本当に困つた。お酒を飲まない、本音が聞けないという韓国人と喧嘩をしたときもあつた。

また、韓国人は情熱的だ。行事やスポーツ、とにかくなんに対しても本気だ。例えば、学校行事でスポーツ大会があつたときのこと。日本人の学生の中にはきついか面倒だとか言う人もいる。しかし、韓国人は選手でも応援でも誰一人さぼらず「本気」で参加していた。気持ちでも熱い国であつた。

情に熱く、オープンで、本気で人とぶつかり仲を深める韓国人に、なにか温かいものを感じた。これが留学生活で感じた韓国の文化と意識の違いだ。



バディーと一緒に買い物(筆者は左から2人目)



— 中国編 —

冷たい料理と日本人のあたたかいところ

サイメイシン
崔明清

【2008年4月～2009年2月中国・北京第二外国語学院交換留学生】

学園大に通っていた時に、あった経験だ。2限目の授業が終わったら、何人かが集まって、机を囲み、めいめい自分の弁当をだし、話し合いながら食べるのがよく見られる。

中国では、そういう風景が見られないだろうと思った。日本では昼休みが中国の2時間ぐらいと比べると、1時間しかなく、かなり短い。そういう理由もあるだろうが。実は、その時、自分で弁当（もちろん、中華料理だよ）を作ってみたこともあるが、やはり、冷たくなると、おいしくなくなる。よく考えてみると、日本の料理は冷たいのは多いから、昼になっても美味しさはまだ減っていないとも考えるのではないか。お握りやお寿司などが冷たい食として広く知られている。

中国人はレストランに行くときも、自宅を訪ねるときも、必ずみんなテーブルを囲み、料理を回らせ、みんな一緒に食べる。途中で、お互いに料理やお酒を勧めたりするのも普通で、非常に賑やかに見える。反対に、日本の食は一人分ずつ小さな茶碗にわけ、自分の手元に揃え、食べるのが普通である。レストランでも、定食や丼などが多く、特にラーメンは一人で食べるのがほとんどだと聞いたこともある。なんとなく「わび」という感じがする。

そうは言っても、お客さんに対する情熱は十分に感じられる。刺身にしても、おせち料理にしても、日本料理はよく「舌と眼で食べる」と言われている。確かに、高級な料理から弁当まで、皆きれいにしている。日本人はDIYが好きで、私も友達から貰ったDIYのカードを、特別なプレゼントとして大切にしている。料理も同じく、心をこめていなければ、作れないだろうと感心した。旬の野菜や生の材料で料理を作るように、日本人は繊細なところで、相手の立場から考え、自然にも人にも優しくしている。そういう気持ちはあまり表現していないが、料理からもあたたかく感じられる。



和服姿の筆者

隣国だけど知らない一面

いけだまさたか
経済学部国際経済学科5年 池田昌隆

【2008年2月～2009年2月中国・北京語言大学に交換留学】

これは中国の友人が出来てから気づいたことなのですが、私は日本と中国では「友人(友達)」の関係に差があると感じました。私が考える日本での友人関係とは「対等の関係、助け合う」というような印象ですが、中国で感じた友人関係とは「相手のために喜んで何でもする、家族」というような印象を受けました。

日本の文化とは違い、一般に中国の文化は「外に厳しく内に優しい」とされています。日本では世間や人の目を気にする人が多いと思いますが、中国ではそれがあまり無いように感じました。例えば「外」では、信号は守らない、列に並ばない、店員さんの態度が悪いなど、日本人には「理解し難い、非常識」だと思える行動には、正直に言うと、最初は私も驚かされました。しかし、外に厳しく、自分の主張をはっきりとする中国の文化を理解していくと、その理由が何となく分かったように思えました。

反対に、「外」には厳しい中国の人でも「内」に対してはとても優しく、私の友人は私が40度の熱を出して寝込んでいるときも、パソコンが壊れて困っているときもすぐに飛んで来て、いろいろ世話をしてくれました。また、誕生日には友人たちに盛大に祝ってもらったり、友人の家族や親戚、友人の友達などを紹介してもらったり、友人からは本当に家族同然の扱い、又は恋人かと思えるような扱いを受けていたように思います。私は中国で新しい家族が出来たような感覚を覚え、とても感動したことを覚えています。隣国だけど知らない一面。私には今まで知ることの無かった中国の良い一面が多く映りました。



大学のルームメイト達と(筆者は右端)



日本とベトナムの違い

グエン ティ チャン
Nguyen Thi Trang

【2008年4月～2009年2月ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校交換留学生】

日本と同様にアジアにあるために、ベトナムは日本と同じ点がたくさんあります。そのおかげで私は熊本に留学する時に日本の生活に慣れるのにそんなに時間がかかりませんでした。しかし文化というのはその国の特色なものですから、ベトナムと違う点も少なくないのです。それらの違いは大学である程度先生の方々に教えてもらっていましたが、実際に体験すると、なかなか面白いというか、深い印象を受けました。今日は皆さんに日本の正座についてちょっとお話ししたいと思います。みなさんが知っているように、正座は日本人の伝統的な座り方ですね。外国人にとっては正座はなかなか慣れないものだとよく言われているのです。

熊本にいた最初の週にホームステイに行く時のことでした。初めて日本人のお宅を訪問しましたから、今でもその日のことをよく覚えています。初めてこたつを見て、とても楽しみにしていたので、とても嬉しかったです。それに初めて正座をして、どれだけ「きつかった」でしょう。初めてのことばかりですね。もちろん日本人の家に行く時に必ず正座をしなければならないわけではありませんが、今まで勉強してきた日本人の文化を全部体験してみたいというのが私のその時の考えでした。だからホームステイ先のお母さんに「遠慮しないで足を崩してください」と何度言われても、「いいえ、大丈夫、全然大丈夫です」と答えました。そして頑固に最後まで正座をしていました。食事が終わった後、足が痺れて、もう本当に足のところが何も感じられないほどでした。だから私はただじっとしているだけでお母さんにお洗濯とかを手伝ってあげられませんでした。

その時は本当にきつかったのですが、今は思い出す度にいい思い出だと思っています。もう一度その痺れる感じを経験したいなと思っています。文化体験というのは本当に面白いことです。だから熊本に留学しているみなさんは日本にいたうちに、できるだけたくさんたくさん体験してみてください。



火の国まつりで浴衣を着ました(筆者は左)

驚き！ベトナムの食事作法

もといわ みどり
本岩 緑
経済学部国際経済学科3年

【2008年9月～2009年3月ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校に交換留学】

私にとって、ベトナムの文化、習慣、人々は、知れば知るほど奥深く興味深いものでした。その中から、食事の作法について驚いたことを紹介します。

食事の作法について一番驚いたこと、それは、床に、ナプキンやごみを落とすということでした。これは、高級レストランなどを除いて、一般的に見ることができる光景です。露店ともなれば、飲み物でも、鶏の足でもお構いなしにポイポイ捨てています。

それを、初めて目の当たりにした時、正直驚き、下にゴミを捨てること、その中で食事することに大変違和感を感じました。でも、これが、ベトナム人からすると、マナーなのです。「郷に入りては郷に従え」という言葉がありますが、これだけはなかなか慣れず、最後の最後までマナー違反な人を貫きました。

ある時友達に「どうして下にごみを捨てるのか」と質問したところ、テーブルが汚れるからと返ってきました。「床はいいのか」と反論しましたが、最終的には、ベトナムではこれが、マナーということになり、この感覚の違いが新鮮で面白かったです。学校の食堂の床に散らばったナプキンやごみ。今思うと懐かしい思い出の一つです。

このようにベトナムでの生活では、日本での当たり前が通じないことが数多くありました。それらに順応していくことが文化交流ではないかと思えます。私自身がベトナムを好きになったことが大きいと思います。相手を理解するための一歩として、文化や習慣などを知ることは大切であるということ、そして世界の中心が自国であるという考えを変えたら、もっと世界が広がるということを学びました。

日本では味わえない体験をできたベトナムに感謝しています。



友人のいとこの結婚式(筆者は右から2人目)



Kampai

ヤーダー ウォンウッティアナン
Yada Wongwudthianan

【2008年9月～2009年8月タイ・チュラロンコーン大学交換留学生】

For 10 months I was in Japan as an exchange student at Kumamoto. After a week I arrived, I had my first Japanese-style dinner with my home stay. I felt a bit surprise that they asked me do I want some liquor. Because in Thailand we had negative attitude in alcoholic beverages, person who drank it seem to be bad person especially if you are woman. But in Japan it was different. Drinking was acceptable in society; just did not broke 2 rules which are your age, over 20 years old and after drinking you cannot drive. Dinner at restaurant I can saw many kinds of Japanese, student, working man enjoy their drinking. I was one of them; the atmosphere is easily to make friends or open-minded. If they wanted to have a party at home, alcohol was easy to buy in supermarket or even convenient store. They had many kinds such as cocktail, calories-cut cocktail, whisky, traditional Japanese liquor, draft beer, high alcohol-percentage beer or non-alcohol beer. Alcohol took part in Japanese custom too, for example, in New Year at mid night of last day Japanese ate soba and drank alcohol for good charm. As I mention, Thai and Japanese has different way to treat alcohol. In Japan liquor flow through as part of important roles. However, in Thailand recently attitude of drinking is gradually changing in better way.



楽しかった大学の体育祭(筆者は右端)

ショック ショック ショック

たしろりさこ
経済学部国際経済学科2年 田代里紗子

【2009年8月～2010年5月タイ・チュラロンコーン大学に交換留学】

私は今回の留学が2度目の海外であり、日本以外のアジアの国を訪れるのは初めての経験でした。日本からタイへ旅立ち、飛行機を降りてからはカルチャーショックの連続でした。

タイの空気を感じて空港の外に出ると、そこには色とりどりの車が並んでいました。よく見るとそれはタクシーでした。赤・青・ピンク・黄色・緑…など、とてもカラフルなのです。日本ではこんなにたくさんの色の車を見ることはあまりないし、それがタクシーなのです。タイのタクシーはとても便利で安く、街のいたるところにこのカラフルなタクシーが見られます。たくさんのビルに大きな広告など、たくさんの色を見つけることができます。このカラフルさが、私にとっては最初のタイでのカルチャーショックでした。

そして街を歩いてみるとたくさんの屋台に出会いました。麺類、おかず類、飲み物、フルーツなど種類も豊富な屋台が、街の至る所に。日本のお祭りの時のような状態が、タイでは普通なのです。タイには屋台がたくさんあるということは知っていましたが、実際に訪れてみると想像をはるかに超えていました。道端で食事をするのができるのには本当に驚きました。

また、タイは王国であり人々は皆王家を敬っています。家庭やオフィスビル、商店や屋台など、至る所に国王の肖像画が飾られていること、国王賛歌が街に流れることに驚きました。そして、タイ人のほとんどが信仰している仏教。お寺で熱心にお祈りをする姿はとても印象的で、宗教信仰の少ない日本では見られない光景に驚きました。その熱心さには感心するばかりです。

異文化、習慣の異なる国で生活することは、カルチャーショックの連続です。しかし、それはとても新鮮で、刺激になります。これからどんなカルチャーショックに出会うのかもとても楽しみです。



友人達とワット・プラケオにて(筆者は左から2人目)



また行きたい熊本

ハン ウン ウ
韓 云 愚

【2008年3月 韓国・大田大学校 交換教員】

日本での一年間の生活は本当に風のように過ぎた。熊本での生活は、私には一生忘れることができない良い思い出として記憶されている。帰国してから半年が過ぎた今も水前寺駅、水前寺公園、熊本城、天草、阿蘇山の風景がまだ鮮明だ。

子供の教育問題のために単身赴任で熊本に来たので、最初は1年をどのように一人で生活することができるか心配だった。しかし一人での生活が新しい経験をする事ができる契機にもなったし、家族の大切さをもう一度感じることができる機会にもなった。過去出張と旅行で日本をしばしば訪問していたので、日本のことは少しは分かっていると自負していたが、1年の長期滞在の中で、大学講義を含み色々経験をした後は日本という国をもっと理解をすることができた。他国での生活を困難なしで過ごすことができたことは学園大学の皆様の助けのおかげだと思う。その方々に本当に感謝している。

日本での生活した間感じたことは多かった。似たことも多かったがとても違ったことも多かった。しかしその中で私が一番大きく感じたことは日本人の秩序意識と親切さだ。どこへ行って、何を尋ねても皆親切にしてくれる日本人の親切さと交通秩序遵守など、彼らの遵法精神と色々な行事で秩序意識は世界第一だと思う。車を運転して色々な所に行った時、交通秩序の遵守と駐車場の秩序意識が本当にすごいと実感することができた。道路で不法駐車はなかったし有料駐車場など交通諸般設備がよく整備されていて、運転と駐車が全く不便ではなかった。日本での運転は運転台が韓国と反対方向で道路が広くなかったにもかかわらず、韓国での運転より不便ではなく運転することができた。その理由はまさに交通秩序が良かったためだと思う。

このような秩序意識とは違って期待に少し至らない面もあった。学生たちの授業に対する積極性と熱意と授業態度が少しは不足したものもあった。授業態度を成績に反映した結果、授業態度は良くなった。しかし学生の積極性は大きく変化がなかった。質問も殆どなかったし質問に返事も恥じる態度に物足りなさが残った。単に一部学生たちが授業後親近感を現わしたり簡単な韓国語であいさつをした程度だった。幸い試験結果を見ると考えよりは熱心に試験を準備した学生が多くて、少しは慰めになった。しかし授

業で感じたこととはとても違うように卒業式と入学式での伝統と秩序を守って厳粛な雰囲気とRuleに従う学生たちの姿を見て、何とも言えない驚きも感じた。

学校の外でボランティアで一般社会人に韓国語を教えた時、彼らの熱意と韓国語実力の水準が高くてとても驚いた。会社員、公務員、小学校先生に韓国語を教えながら、彼らから日本に対する理解を広げる機会になった。その人々の中では親しい友人になった人もいて、今でも便りをやり取りする人もいる。初めて日本に行った時からボランティアをしたならばさらに多い経験と思い出を持つことができたはずなのに、物足りなさが残る。

帰国する前菊池のある小学校先生が私に尋ねた。熊本の生活はどうだったかと…。私は「こちらでの生活はいつも楽しかった。過去よりさらに日本人に親近感を感じたしこれらの親切に感謝する。過去アメリカにもいたがこのように日本に対して感じる気持ちにはならなかったし、熊本は私にとって第2の故郷のようだ。また日本を訪問するならば必ず熊本にきたい。」と答えると彼は喜んでくれた。

熊本での一年は私には本当に大切な時間だった。近くて遠い国ではない近い国、また行きたいところ、熊本…そちらでの思い出は一生忘れることができないだろう。日本での生活の間にお世話になった皆様、特に中野委員長、切通さん、国際交流センター職員、西園寺先生、岡本先生、船木先生、外浦誠司先生、江島さん、星子さん、田中さんなど皆様にいつも感謝している。

その方々にまた会う日を期待して…

8月末、大田にて。



天草大江教会で家族と、2008年8月(筆者は左端)



忘れ難い宴会

リュウ ムウ ホウ
柳 木 華

【2008年9月～2009年2月 中国・深圳大学 交換教員】

一次难忘的酒会

酒会这个词对于日本人来说可能有的陌生，其实就是“吃饭”的意思。“吃饭”虽属平常，一日三餐，但在中国人心目中却有着不寻常的意义，“民以食为天”、“仓廩实而知礼节”，以至于“你吃饭了吗？”发展成为日常寒暄语。

那还是我来熊本后刚好一个月，正值新中国59岁的生日。学园大国际交流中心通知我参加由熊本华侨举行的国庆节酒会，地点在下通街红蘭亭。我骑着学园大交给我们交换教师临时使用的自行车，提前一点到达红蘭亭。说到自行车，我现在都由衷感谢学园大为我们提供自行车这一便利的交通工具，真是想的太周到了。

酒会地点在红蘭亭的二楼。我进去后环顾酒店四周，发现悬挂了不少名人的照片和题词，感觉这里应该是熊本的著名中餐厅。在工作人员的安排下，我和学园大的几位中国交换生坐在同一张桌上，此外还有几位老者。酒会在约六点半开始，用餐之前由华侨协会会长讲话，接着由一位来自熊本大学的留学生代表发言，然后开始吃饭了。红蘭亭的菜口味不错，在中国菜的基础上进行了改良。可能是因为有一段时间没有吃到可口的中国饭菜，所以当晚吃的很多。席间，用不怎么熟练的日语和旁边的一位老者交谈起来，我做了自我介绍，老者拿出名片，得知他是红蘭亭的董事长叶山祥泰先生。酒过三巡，我们之间的交谈多了起来。从谈话得知，叶山祥泰先生是第三代华侨，上过日本著名的私立大学——庆应大学，对中国的古诗特别感兴趣。我们从李白的《静夜思》，谈到杜甫的《春望》，谈到《春望》，先生特别来劲，不觉一同吟唱起来，“国破山河在，城春草木生。感时花溅泪，恨别鸟惊心……”。我当时感到吃惊，一位日本的老华侨对中国的古诗和文化竟有如此浓厚的兴趣，听说近年来为了提高汉语水平，还聘请了NHK的播音员教汉语。时间过得很快，不知不觉酒会结束了。我依依不舍地和叶山祥泰先生道别。

看到叶山祥泰先生如此喜欢中国的古文化，我此前恰好读过著名国学大师王国维写的《人间词话》，非常喜欢，于是托家属在国内买了这本书，春节到日本探亲时带来。今年1月份家属把书带来后，我托我学校的交换生送给叶山祥泰先生。在我临行回国前，叶山祥泰先生打电话给我，告诉我送的书已收到，表示感谢，希望回国前一起吃顿饭。我因为时间关系，没有赴约，深感遗憾。

马上又快到国庆节，今年是新中国成立六十周年，到处洋溢着喜庆气氛。此时我免不了想起去年在熊本的国庆酒会，想起了叶山祥泰先生。

「酒会」（中国語で宴会やパーティーの意）という言葉は日本の皆さんには、なじみがないかもしれませんが、（酒会と書くものの）実は、「食事をする（会）」ということであり、「食べる」ことは、一日三食のように、日常のごくありふれたことですが、中国人にとっては当たり前でない意味合いが込められています。「民以食为天」（民は食を以て天と為す）や「倉廩実而知礼節」（穀倉満つれば礼節を知る）と言いますし、また中国語では「你吃饭了吗?」（食事をすませましたか）という言葉は、日常のあいさつ言葉になっています。

あれは、私が熊本に来てからちょうど1か月経った、新中国59歳の誕生日の時のことです。学園大の国際交流センターより、熊本在住の華僑の方が開く国庆节（中国の建国記念日）の祝賀パーティーへのお誘いを受けました。場所は下通りにある紅蘭亭です。私は大学が我々交換教員のために提供してくださった自転車に乗り、少し早めに紅蘭亭に到着しました。自転車と言えば、今でも学園大が私たちのために自転車という便利な交通手段を提供してくださったそのお心遣いに感謝いたします。

会場は紅蘭亭の2階で、店の中に入ると私は周囲を見渡しました。たくさんの著名人の記念写真や題辭が飾ってあり、このお店はきっと熊本で名の知れた中国料理店であるに違いないと思いました。お店の人の案内で、私は学園大の中国からの交換留学生たちと同じテーブルに座りました。このテーブルには、私たちの他に年配の方が数人いらっしゃいました。宴会は6時半頃に始まり、食事を頂く前に華僑協会の会長のあいさつがあり、続いて熊本大学の留学

生代表があいさつをして、食事が始まりました。紅蘭亭の料理はとてもおいしく、中国料理の基礎の上に改良を加えているようでした。しばらくおいしい中国料理を口にしていなかったからでしょうか、この夜は特にたくさん頂きました。席上、私はあまり上手とは言えない日本語で、隣の年配の方と話を始めました。私が自己紹介をすると、その方は名刺を取り出しました。名刺を見て、この方が紅蘭亭の会長、葉山祥泰氏でいらっしゃることを知りました。お酒や料理も充分に出され、私たちの間の会話も多くなりました。葉山先生は華僑の3世で、日本の有名私大である慶應義塾大学で学ばれ、中国の古典詩に大変興味を持たれているとのことでした。李白の詩「静夜思」から始まり、杜甫の「春望」にまで話が及ぶと、葉山先生の気分も乗られ、私たちは思わず一緒に詩を吟唱し始めました。

国破山河在（国破れて山河在り）
城春草木深（城春にして草木深し）
感時花濺淚（時に感じて花に涙を濺ぎ）
恨別鳥驚心（別を恨み鳥に心を驚かす）
.....

私はその時、日本の老華僑が中国の古典詩や文化にこれほど深い関心を抱いていることに驚きました。ここ数年、葉山先生は中国語の能力を高めるために、NHKの方を招いて中国語を教えてもらっているとのことでした。時の経つのは早いもの、いつの間にか宴会は終わり、名残惜しく思いながら葉山先生と別れました。

葉山先生がこれほどまでに中国の古典文化に関心を寄せていらっしゃることを知ると、私は以前、中国の有名な国学の大家である王国維の書いた『人間詞話』を好んで読んでいたことを思い出し、この本を中国にいる家族に頼んで買ってもらい、春節（旧正月）の休みに日本に持って来てもらうことにしました。今年（09年）1月、家族が買って来た『人間詞話』を、学園大に来ている交換留学生に託して葉山先生のもとに送り届けてもらいました。帰国前に、先生よりお電話で本を頂いたことに対するお礼と、食事のお誘いがありましたが、誠に残念ながら都合がつかず行くことができませんでした。

中国はもうすぐ国庆节です。今年は新中国建国60周年にあたり、到る所、祝賀ムードで満ち溢れています。今、私は昨年熊本で開かれた国庆节の宴会と葉山先生のことを思い出さずにはられません。



熊本学園大学図書館前で娘と



日本での思い出

チャン
張

メイ
梅

【2009年3月～2009年8月 中国・深圳大学 交換教員】

在日有感

2009年春季我作为交换教师来到日本熊本学園大学,主要担任每周2次的中文教学工作。尽管在日本的时间只有半年但有很多人和我记忆犹新,难以忘怀。记得第一次上课的时候,我站在讲台上先用中文向同学们问好,下面40多名学生先是睁着大大的眼睛静静地看着我,然后隔了一阵子才慢慢地轻轻地跟着我一句一句地读起来,神情中透着好奇和跃跃欲试的求知欲望。在日本以讲课的形式和学生接触尽管不是第一次,但这里的學生给人似乎更加纯朴和内敛的感觉,等熟悉以后他们也会带着年轻人特有的天真和可爱围着你问这问那。

熊本学園大学占地面积虽然不大,但学校的基本设施及功能都很齐全。在日期间,我有幸参加了学校举办的学生的毕业式,新生的入学式和学校的校庆等活动。而每次都会被那庄严肃穆而又隆重的场面所感动,也感受到了这所学校治学严谨的校风。不仅如此在办学方面,这里也有一套完整的管理体系。比如学校会实时向老师通报学校的管理,人事变动,学术研究方向,后勤服务等各种信息,使每一个教职工都会有一种归属感和强烈的参与意识,增强了学校的向心力和凝聚力,提高了学校的办事能力和效率。另外学校重视学术研究,现代化的图书馆里除大量的藏书外,还长期向师生征询书籍订购意向,常设新书借阅书架,供全校师生最早读到新出版的书籍,为学术研究提供了优质快捷的科研环境。严谨的治学理念,科学的管理方法,以学术为本的办学作风,让我感动之余反思和忧虑中国高校的现状和存在的差距。

回中国深圳已有2个多月,每当看到窗外车流不息的车流和熙熙攘攘的人群,总会让我想起在日的时光,那静而又充实的生活让人留恋。那里的景色秀美,人们朴实有礼。尤其让我难以忘怀的是那里的宁静。那种晚饭后走在街头,听到的只是自己沙沙的脚步声的感觉。

感谢在日期间给予我诸多关照的所有人。

深圳大学外国语学院
日语系 張梅
2009年11月1日

2009年春,私は交換教員として熊本学園大学に赴任して参りました。大学では中国語の授業を週2回担当させていただきました。日本での滞在期間はわずか半年でしたが、たくさんの人々や出来事の思い出が今もなお記憶の中に残っていて忘れられません。今でも思い出すのは、学園大での初めての授業です。教壇に立った私は先ず中国語で学生たちにあいさつをしました。40人余りの学生たちは目を大きく見開いて黙って私を見つめていましたが、しばらくすると、徐々に低い声で私の後について教科書を一文一文読み出しました。彼らの顔つきからは湧き上がるような知的好奇心が見てとれました。日本の学生と授業を通じて触れ合うのは今回が初めてではありませんでしたが、学園大の学生はより一層素朴でおとなしく、感情を表に出さないように感じられました。私のことをよく知るようになってからは、若者特有の無邪気さとあどけなさでもって、私を囲んであれこれと質問してくるようになりました。

学園大は敷地面積は大きくはありませんが、学校の基本的な設備や機能はとても整っていると感じました。滞在中、幸運にも私は学園大の卒業式や入学式、創立記念などの行事に参加させていただき、毎回そのおごそかで盛大な光景に感動するとともに、学問に対する厳格な校風を感じると

ことができました。教学面のみならず、管理体制の面でも学園大は整っており、例えば、大学は学内広報紙を通じて教職員にリアルタイムで大学の管理運営、人事異動、学術動向、事務案内などの各種情報を伝えており、そのことが教職員一人一人に大学への帰属意識と強い参与意識を芽生えさせ、大学の運営上の能力と効率を高めているように感じられました。また、学園大は学術研究を重視しており、現代化された図書館には大量の蔵書の他に、長期にわたって教員と学生に図書購入の注文を受け付けていました。図書館には新刊書のコーナーも設けられ、いち早くそれらを手にとって読むことができるようになっています。このように、学園大では学術研究のための良質でかつ迅速に対応可能な研究環境が提供されています。厳格な修学理念、科学的な管理方法、そして学問を基礎とする大学運営、これらに私は感動し、また、ひるがえって中国の高等教育機関における現状や日本との格差について認識を新たにすると同時に、憂慮を覚えました。

深圳に戻って既に2か月余り、窓の外の絶え間なく行き来する車の流れと賑やかな人の群れを目にする度に、日本での時間、あの静かで充実した生活が懐かしく思い起こされます。熊本の美しい景色と、素朴で礼儀正しい人々。特に忘れられないのは、あの静けさです。それはちょうど、夕食後、道を歩く時にカサカサという自分の足音しか響いてこないあの感じに似ています。

滞在中、いろいろとお世話になった方々にお礼申し上げます。



熊本学園大学の入学式にて(筆者は前列左から2人目)



私費留学生インタビュー

学園大で頑張る

私費留学生に聞きました!

タンカンコ

デニス

Tangcangco Dennis

(商学部ホスピタリティ・マネジメント学科4年) フィリピン出身

1. 現在熊本学園大学で何を勉強していますか?

特に、ホテル業界や航空業界のサービスや「もてなしの心」を勉強しています。「もてなしの心」は、どの会社にも就職しても必要なことだと学科で習いました。

「もてなし」とは優しさと強さです。例えば、自分がバスの運転士でお年寄りがバスの中で立っていて若者が座っていたとしたら、席を譲ってもらうようお願いしないといけない。「しないといけないことをちゃんとできるか」といった配慮と強さが必要で、どういう風に自分のホスピタリティ(=おもてなしの心)を表せるかが大事です。

日本では「おもてなし」があふれていて、それは公共機関でもよく感じます。自分の出身国のフィリピンではそこがまだ足りないところ。見た目でサービスの内容や質が変わることがあります。以前フィリピンの空港でスーツを着ていたならこれまで味わったことの無いサービスを受けました。日本は幼い頃からの教育がしっかりしていることが、日本のおもてなしの質に反映されているのだと思います。

2. 留学の理由は何ですか?

母が日本在住で、福岡の入国管理局に直接聞いたところ、熊本の語学学校を勧められたので来熊しました。まず日本



自宅前にて

語学校で1年半勉強し、その後専門学校で外国人向けの「国際ホテル経営管理科」で2年間勉強しました。その時から学園大学の図書館を利用させてもらっていましたが、それがきっかけで本学に編入しました。

3. 留学を通じて得たものはなんですか。また、それをどう活かしていきたいですか?

自国に対しての思いや自国の状況、足りないものが見えてきました。

得た中で一番大きなものは「ビジネスマナー」です。日本で学んだビジネスマナーは、外国でも通用すると思います。自分のコミュニケーション能力も変わった気がします。丁寧に話し、行動するようになりました。ビジネスマナーはフィリピンでは中々学べなかったものです。将来はALT(外国語指導助手)や貿易に関する仕事を日本でしたいです。

フィリピンでは公的・法的な文書、大学の授業や論文も全て英語で、日本人よりも英語に馴染んでいるので、それが活かせると思います。

4. 熊本や学園大学の好きなのを教えてください。

図書館、バーカリー、e-キャンパスセンター、就職課が好きでよく利用しています。就職課では情報がほしいときにすぐに手に入るので便利です。

熊本では、自分の住んでいる水前寺周辺が便利でお気に入りです。運動がてら自転車で1時間かけてイオンモールクレアに遊びに行くこともあります。

5. 本学学生へのメッセージをお願いします。

私は今29歳です。進学前は年齢のことや費用のことで随分悩みました。日本留学はフィリピンでは土地や家を買うほどの出費です。でも日本の大学を卒業するのが私の夢で、日本留学は家族のサポートで実現しました。専門学校時代もその夢の為に必死に勉強してクラスではトップの成績をとることができました。

皆さんも、夢をあきらめないでください!



リ セ ウン
李 世 恩

(国際文化研究科国際文化専攻修士課程2年) 韓国出身

1. 現在熊本学園大学で何を勉強していますか？

大学院では米岡ジュリ教授の指導の下、英語教育の中で学習者のモチベーションとstrategy（学習戦略）の関連を研究しています。学習意欲が高い人は自分なりの学習方法を考えたり、自分に合ったstrategyを適用したりする傾向があるのではないか、という仮説のもとに研究を進めています。これは新しい考え方で、passive（受動的）ではなく、active（能動的）な学習効果を提案するものです。

学部では、教職課程を取っていました。私は、日本人とは同じやり方をしてもかなわないので、私ならではの戦略を考え、どうすれば効果的に学べるかを念頭において常に勉強してきました。これが大学院での今の研究につながっています。

2. 留学の理由は何ですか？

韓国で習字（ハングル）を習いながら、ひらがなに触れる機会があり、ひらがなに不思議な感じを受けました。以前から外国で学びたいと思っていましたが、叔母のいた身近な熊本に高校1年から留学しました。

今では誰も信じませんが、留学当初は「初めまして」も言えず苦勞の連続でした。

3. 留学で学んだものはなんですか。

大学時代の1年～4年の毎年が違う色でした。1年では「大学」という社会を学びました。「自立する」ということがどういうことかを初めて体験しながら、与えられた自由な24時間をどうすれば有効に使えるかを考えました。

大学での思い出はたくさんあります。1年次には留学という同じ目標を持つ友人達に出会い、2年次では交換留学の準備が忙しい中、大学で学ぶ楽しさも知りました。3年次には念願のアメリカ(ウィスコンシン大学オークレア校)に交換留学しました。一度日本への留学という異文化を体験していたので、アメリカへの留学ではカルチャーショックも無くすぐ異文化に溶け込みました。留学の経験から適応能力が身についていたのだと思います。

アメリカへの留学では、一つ一つ「戦略」を持って困難に立ち向かう事が出来ました。例えば、ディスカッションの

授業では中々ついていけず悩んだこともあります。そこで、担当の先生に相談したところ、授業での質問内容を前もって教えてくれ、実際その通りに授業で質問してくれました。そのお陰で事前の準備ができたのでちゃんと答えることができました。それが自信となり、その後はすんなりディスカッションに参加できるようになりました。そういう風に困難を一つずつ着実に解決できるようになったのは、「二度目」の留学の成果です。

4. 学園大学の好きなのところを教えてください。

学園大の好きなのところは、可能性を広げてくれるところです。学生の視点に合わせて要望を聞いてくれ、やろうと思えば実現できる環境があります。

例えば、English LoungeやEnglish Weekend、Freshman Campでは留学生との交流もできましたし、自分達が企画、立案、実行する中でリーダーシップや企画力も養われました。楽しみながら自分に役立つスキルが身につき、かつ、勉強と遊びの両立もできました。

5. 本学学生へのメッセージをお願いします。

「挑戦」というものは自動ドアのようなものだと思います。近づかないと開きません。この24時間自由に与えられた大学4年間をどう使うかによって、明日は変わるはずですよ！



やっぱり学園大の銀杏並木はいいなあ！
(筆者は右から3人目)



留学は僕のターニングポイントでした！

熊本学園大学商学部商学科卒業 かわばた ひでき
川畑 秀貴

平成11年度交換留学生として、韓国・大田大学校に留学。
現在は、日本サムスン株式会社勤務。

私は今から10年前の1999年に韓国・大田大学校に留学しました。当時の私は好奇心が旺盛で「とにかく何でも経験したい！」という思いから韓国留学を決意しました。初年度の留学試験は韓国語の実力もまだ十分ではなく準備期間も短かったため、不合格でした。しかし、留学に対する思いをどうしても捨てきれず、周囲が就職活動の準備を始める時期にも拘わらず、翌年も諦めず留学試験にチャレンジし両親からの反対の意見もあったものの、4年時に熊本学園大学から留学の機会を頂くことになりました。

「あの一年がなかったらいまの自分はどうなっていたろう？」いまでも韓国出張に行く度、慌ただしい飛行機の中でふっと思い返すことがあります。しかし、留学を経験しなければ今の自分はなかったであろうし、留学を通じて経験した様々な経験によって現在の私を形成したことは間違いありません。入学当初の予定より1年多い大学生活でははありましたが、いま振り返ってみると留学をして本当に良かったと思っています。

留学中の生活は全体を通して毎日のように起こる諸問題に対応する日々でした。時には若さ故、自暴自棄になった

り、考えることを放棄することもありました。しかし、そういうときこそ自分を信じて少しでも前進していけば良い結果がでる、と信じ「結果はどうであれ、いまはとにかくやってみよう。」と決意し、諦めたり逃げ出したりしないようにしました。留学中に経験した様々な経験は、その後の人生において、どのような局面に対しても柔軟に対応することができるようになり、考え方においても常にプラスに考えられるようになりました。更に、この留学の経験は就職活動でも十分活かすことができ、就職活動中の様々な困難に直面しても自分自身をコントロールすることができ、自分なりに良い就職活動が出来たといま改めて思っています。

熊本学園大学を卒業し、2001年に当初の目標であったサムスングループの日本支社である日本サムスン株式会社に入社することができました。新入社員研修では、“サムスンマン”になるための様々な研修プログラムが用意されており、韓国本社での研修も含め厳しい3ヵ月間の研修でしたが、いまとなってはサムスングループの様々な分野で活躍している同期と励ましあいながら過ごした貴重な時間で



青春の思い出がたくさん詰まったサムスン電子本館にて



した。

入社当初は経理部署に配属され、主にサムスンの主力製品であるエレクトロニクス製品の海外への銀行送金を約3年間担当しました。日々、仕向銀行や被仕向銀行に依頼をする業務に明け暮れていました。当時は「毎日毎日なぜ同じことの繰り返しなんだろう?」と悩むことも正直多々ありましたが、この海外送金に関わる業務を担当したことによって製品ごとに異なる支払いタームや弊社の主力製品の動向及び、製品の仕組みなどを知ることができたことは、この後の会社生活に大いに活かすことができました。

入社から3年経った2004年秋に当時の先輩(現在の上司)に経営企画Teamに誘われ、籍を置くことになりました。経営企画Teamでは調査Partに所属し、日本の様々な家電製品、及びに市場動向などを本社サムスン電子に日々報告しています。この部署では韓国本社からの様々な依頼に対応するため韓国語は必須でした。以前の経理部署では韓国語を使うことはほとんどなく外出や出張などもほとんどなかったのですが、現在所属している経営企画Teamでは、韓国語での報告書作成や年に数回の韓国本社でのミー

ティングもあり、韓国語を使う機会が以前より格段に多くなりました。現在でも語学力は未熟ではありますが、韓国人とのコミュニケーション等、留学で学んだことが大変役立ちました。今後は海外駐在なども視野に入れており自身自身のレベルアップは勿論のこと更に業務の幅を深めたいと思っております。

私は熊本学園大学の教室は大江キャンパスだけではないと思っています。熊本学園大学生には今後とも本校の留学プログラムを一人でも多く活用して頂き世界各国にあるキャンパスで海外に関する知識を深めると共に、有意義な学生生活を送って頂きたいと思います。私は韓国留学を経験させて頂けなかったら、現在の環境はなかったであろうと常々感じております。もし、留学に対して悩んでいる方がいたら、あまり深く悩まないで是非自信を持ってチャレンジして頂きたいと思います。

最後になりますが、当時の私の留学生活を支えて頂いた国際交流センターをはじめ熊本学園大学に改めて感謝いたします。本当にありがとうございました!



ルームメイトと一緒に〜大田大学校の寄宿舎にて〜
(筆者は前列右側)

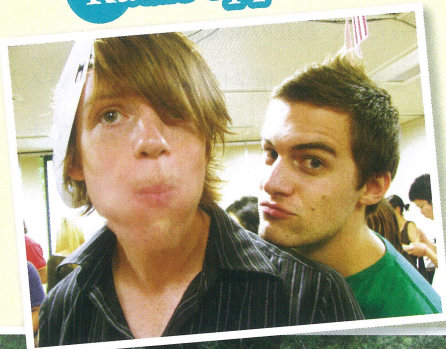
国際交流写真館



New Year's Party



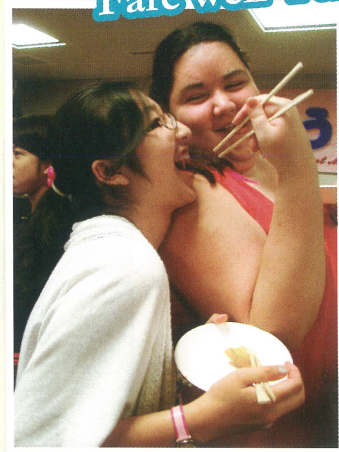
Radio appearance



Welcome & Farewell Party



Friendship





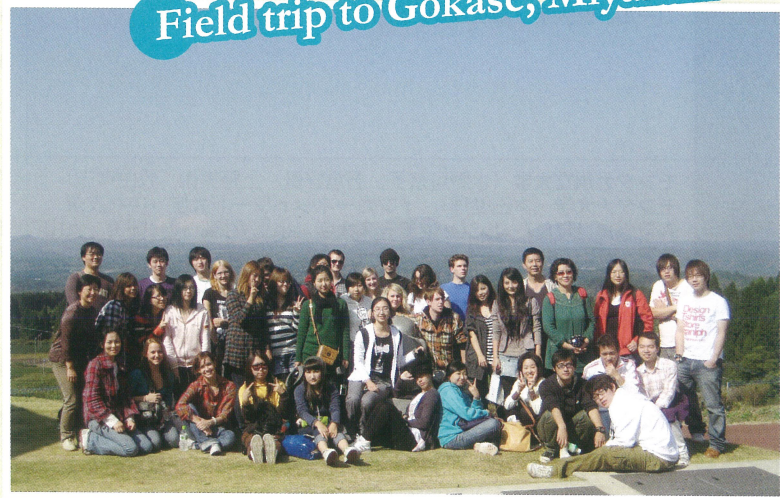
Field trip to Mt. Aso

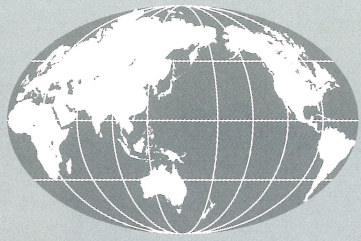


Sports & school festival



Field trip to Gokase, Miyazaki





2009年海外往来

	交換留学生・教員（派遣）	交換留学生・教員（受入）
1月	<p>深圳大学（坂本みどり、諸藤由加里）、北京第二外国語学院（堅島千彰）帰国</p> <p>ラトロープ大学（渡辺由奈、鬼塚朋美、平山和枝）、ユニテックニュージーランド大学（佐々木慶太、増井沙奈江、早川千尋）出発</p>	<p>大田大学校（崔斗桓）帰国</p>
2月	<p>北京語言大学（池田昌隆）帰国</p> <p>深圳大学（松本由希子、出口聡子）出発、北京語言大学（大山絢子）、北京外国語大学（佐藤翼）、北京第二外国語学院（福山明）出発</p> <p>大田大学校（吉留夏羽、石井智晴、小林ゆうき、山本洋子、西村康孝）帰国</p>	<p>モンタナ州立大学（イアン・キャンブ）、大田大学校（吉智慧、李スル、金璋鎬、陸正勲、河受旻、朴明恩、林恩恵）、ベトナム国家大学ハノイ校（グエンティ・チャン）帰国</p> <p>大田大学校（韓云愚先生）交換教員、深圳大学（柳木华先生）交換教員帰国</p>
3月	<p>ベトナム国家大学ハノイ校（本岩緑）帰国</p> <p>大田大学校（松本莉沙、北村咲紀）、ユニテックニュージーランド大学（頼藤瑠璃子）出発</p>	<p>大田大学校（陸根和先生）、深圳大学（張梅先生）交換教員来日</p> <p>モンタナ州立大学（ザック・ドー）、深圳大学（肖一航、黄曉梅）、北京第二外国語学院（崔明清）、帰国</p> <p>モンタナ州立大学（リンジ・クリーク）、セント・メアリーズ大学（ジョジナ・ゴドフリ）、ラトロープ大学（オティス・マッカロク）、大田大学校（朴淨雅、李慧恩、趙宣貞、尹泰重、柳賢淑、許珉寧、李至愛、朴運姫）、深圳大学（庄妮、肖詩亮）、北京第二外国語学院（曹沁鈺）来熊</p>
4月	<p>セント・メアリーズ大学（田代彩花）帰国</p>	<p>ラトロープ大学（アシュリー・ローズミス）、ベトナム国家大学ハノイ校（ファム・ホン・ハン）来熊</p>
5月	<p>モンタナ州立大学（大村美沙季、西村淳美）、キャロル大学（武藤由貴）、インカーネットワーク大学（平井桃花）、ウイスコンシン大学オークレア校（米田浩之）、セント・メアリーズ大学（宮前紅里、吉永明日美）、リバプールジョンモーズ大学（下田智子、渡辺美里）、ユニテックニュージーランド大学（頼藤瑠璃子）帰国</p>	
6月		
7月	<p>カールトン大学（畠永理沙）出発</p>	<p>モンタナ州立大学（ステイーブン・マーニオン）、セント・メアリーズ大学（アレクサンドリア・ドゥーガル、レイチェル・ルイス）、モンタナ大学（エリン・フレディー）、キャロル大学（スペンサー・ウィルケンセン）、インカーネットワーク大学（アナ・ガーザ／熊本市受入）、リバプールジョンモーズ大学（リアン・ワイトマン、デイビッド・ヒース）帰国</p>
8月	<p>モンタナ州立大学（水野可奈子、石倉好貴、上野美世、牧由布志）、モンタナ大学（本田愛理）、インカーネットワーク大学（中村友規、森淑恵）、リバプールジョンモーズ大学（小川菜摘、後藤好美、大山佐紀、右田圭世）、チュラロンコン大学（田代里紗子）出発</p>	<p>深圳大学（張梅先生）交換教員帰国</p> <p>モンタナ州立大学（ジョン・ショルツ、リンジ・クリーク）、インカーネットワーク大学（ティファニー・スパイサー）、チュラロンコン大学（ヤーダー・ウォンウツティアナン）帰国</p>
9月	<p>セント・メアリーズ大学（宇野由紀恵、中島美緒）出発</p> <p>ユニテックニュージーランド大学（早川千尋）帰国</p>	<p>深圳大学（馬敬仁先生）交換教員来熊</p> <p>モンタナ州立大学（ローレン・オプリー・レリオス、ウィリアム・スナイダー）、キャロル大学（アレクサ・エチャート、アン・クリスティン・エチャート）、カールトン大学（ロバート・レマスワール）、リバプールジョンモーズ大学（カーリー・スコサーン、トバイアス・コルトン、ヴィクトーリア・ベネート）、チュラロンコン大学（テムシム・ナリウイスト）来熊</p>
10月		
11月		
12月	<p>ラトロープ大学（渡辺由奈、鬼塚朋美、平山和枝）、ユニテックニュージーランド大学（佐々木慶太、増井沙奈江）帰国</p>	



研修団	その他	
	ユニテックニュージーランド大学 ニック・シャックルフォード氏来学 1/19	1月
短期語学ホームステイプログラム [ラトローブ大学 (13名) 2/7~3/8]	モンタナ大学 ロバート・ハウスマン氏来学 2/13	2月
短期語学ホームステイプログラム [ユニテックニュージーランド大学 (9名) 2/27~3/23]	南京師範大学 (中国) 3/11~3/14 崑山科技大學 (台湾) 訪問団来学 3/29~3/30	3月
		4月
	大田大学校 (韓国) 王秀瓊氏、食品栄養学科研修団来学 5/11	5月
	全南大学校 (韓国) 行政学科一行 (40名) 来学 6/30	6月
外国語学部海外研修 (中国コース) 出発 7/31	崑山科技大學 (台湾) 訪問 (中野裕治国際交流委員長一行) 7/7~7/9 リバプールジョンモーズ大学 (英国) 秦健一郎氏来学 7/17	7月
学生自治会代表団 (大田大学校) (学生15名、引率3名) 8/3~8/5 経済学部国際事情研修 (中国コース) 出発 8/1 外国語学部海外研修 (韓国コース) 出発 8/1 経済学部国際事情研修 (中国コース) 帰国 8/25 外国語学部海外研修 (韓国コース、中国コース) 帰国 8/27		8月
		9月
	ラトローブ大学 (オーストラリア) ガブリエラ・ボニフィンチ氏来学 10/6	10月
	大田大学校 (韓国) 一行来学 (ユニバーシティ・コンファレンス) 11/7	11月
	セント・メアリーズ大学 (カナダ) ニコラ・マクネヴィン氏、モーリーン・ウッドハウス氏、エリン・グリネル氏来学 12/10 ベトナム国家大学ハノイ校外国語大学学長一行来学 12/2	12月



DATA

2009(平成21)年度 国籍別外国人留学生数

春学期

(5月1日現在)

地域	国籍 (国・地域名)	学部留学生					研究留学生			大学院生					留 学 生 換	合計	
		1	2	3	4	計	学部	院	計	1	2	博1	博2	博3			計
欧 米	アメリカ U.S.A.									1					1	7	8
	イギリス U.K.															2	2
	カナダ Canada															3	3
ニア オセア	オーストラリア Australia															2	2
ア ジ ア	韓国 Korea	1		1	1	3	2		2		2				2	8	15
	中国 China	10	5	6	14	35	4	5	9	10	12	1	2		25	3	72
	台湾 Taiwan	1				1											1
	タイ Thailand															1	1
	ベトナム Vietnam															1	1
	フィリピン Philippines				1	1											1
	ミャンマー Myanmar											1			1		1
	合計	12	5	7	16	40	6	5	11	11	14	2	2	0	29	27	107

【11カ国(地域) 107名】

秋学期

(10月1日現在)

地域	国籍 (国・地域名)	学部留学生					研究留学生			大学院生					留 学 生 換	合計	
		1	2	3	4	計	学部	院	計	1	2	博1	博2	博3			計
欧 米	アメリカ U.S.A.									1					1	4	5
	イギリス U.K.															3	3
	カナダ Canada															2	2
ニア オセア	オーストラリア Australia															2	2
ア ジ ア	韓国 Korea	1		1	1	3	2		2		2				2	8	15
	中国 China	9	5	6	11	31	2	5	7	10	11	1	2		24	3	65
	台湾 Taiwan	1				1											1
	タイ Thailand															1	1
	ベトナム Vietnam															1	1
	フィリピン Philippines				1	1											1
	ミャンマー Myanmar											1			1		1
	合計	11	5	7	13	36	4	5	9	11	13	2	2	0	28	24	97

【11カ国(地域) 97名】

※「留学」の在留資格を持っている学生のみ。
※休学者を含まず。



2009年 留学生参加行事

名 称	主 催	内 容	期 日
成人式	日本現代和装研究会	着物の着付けと式典出席	1月12日(月)
企業人と留学生との交流会	YMCAフィランソロピー協会	企業見学・企業人と留学生との交流	1月24日(土)
第15回 米国人留学大学生との交流会	熊本日米協会	米国人留学生と協会員との交流	1月30日(金)
ユネスコ能楽ワークショップ	熊本ユネスコ協会	能面の体験・仕舞の鑑賞など	1月31日(土)
第26回熊本春節祝賀会	熊本県日中協会	中国人留学生と協会員との交流	2月25日(水)
ひなまつり	熊本YWCA	着物の着付け体験・日本茶道の体験	3月8日(日)
ユネスコ文化財を見る会	熊本ユネスコ協会	阿蘇へユネスコ会員との小旅行	3月14日(土)
熊本市広域防災センター見学	熊本学園大学 国際交流センター事務室	防災センターで消防事情講話と 地震・台風・火災体験	4月6日(月)
春の新入留学生歓迎バスハイク	熊本学園大学 国際交流センター事務室	阿蘇烏帽子岳登山・足湯体験	4月18日(土)
本丸御殿コンサート	くまもと全国邦楽コンクール 実行委員会	邦楽コンサート	5月17日(日)
第19回 外国人留学生弁論大会	熊本学園大学 国際交流委員会	本学留学生の日本語による弁論大会	6月13日(土)
九州横断(豊後街道)徒歩の旅	NPO法人自然を愛する会	熊本の歴史の道体験	8月15日(土) ~21日(金)
国際交流夏のつどい	(財)北海道国際交流センター	ホームステイによる地域、学校交流	8月16日(日) ~29日(土)
熊本市広域防災センター見学	熊本学園大学 国際交流センター事務室	防災センターで消防事情講話と 地震・台風・火災体験	9月16日(水)
ホームステイ体験	城南町フレンドシップクラブ	城南町の家庭へのホームステイ	9月21日(月) ~23日(水)
国慶節祝賀会	熊本県華僑総会	中国人留学生を招いての交流会	10月1日(木)
「細雪」	熊本市振興事業団からのご招待	観劇	10月14日(水)
中国留学生生活支援バザー	熊本県日中友好協会	生活支援バザー	10月18日(日)
能「籠」	肥後金春流保存会	能舞台鑑賞	10月24日(土)
体育祭	熊本学園大学体育常任委員会	体育祭へ参加	10月24日(土)
託麻祭	熊本学園大学第一部学生自治会	中国人留学生による模擬店の出店	10月30日(金) ~11月1日(日)
秋の新入留学生歓迎バス旅行	熊本学園大学 国際交流センター事務室	宮崎高千穂峡・五ヶ瀬ワイナリー見学	10月29日(木)
JRC高校生メンバー国際交流会	日本赤十字社熊本県支部	高校生との交流会	11月15日(日)
第23回留学生交流会	熊本北ローターアクトクラブ	日本の伝統料理・遊び体験	11月15日(日)
留学生スポーツ交流会	熊本学園大学第一部学生自治会 学生議会	本学日本人学生と留学生との スポーツ交流と懇親会	12月19日(土)
熊本地区留学生シンポジウム	熊本留学生交流推進会議	留学生の日本体験談と交流会	12月20日(日)



交換教員往来



ユック クン ファ
陸根和先生

(韓国・大田大学校交換教員) 2009年3月から1年間、韓国語を担当



チャン メイ
張梅先生

(中国・深圳大学交換教員) 2009年3月から半年間、中国語を担当



マ ジン レン
馬敬仁先生

(中国・深圳大学交換教員) 2009年9月から半年間、中国語を担当



どい ふみひろ
土井文博先生

(商学部准教授) 2009年8月から1年間、交換教員としてアメリカ・モンタナ大学へ



かがわ まさとし
香川正俊先生

(商学部教授) 2009年9月から半年間、交換教員として韓国・大田大学校へ

2009年度 研修団往来

〈派遣〉

研修団名	研修期間	期間	研修・派遣先	団員数
経済学部国際事情研修 ニュージーランドコース (予定)	2010年 2月12日(金)～3月11日(木)予定	28日間	ユニテック ニュージーランド大学	14名
経済学部国際事情研修中国コース	8月1日(土)～8月25日(火)	25日間	上海外国語大学	2名
外国語学部海外研修韓国コース	8月1日(土)～8月27日(木)	27日間	梨花女子大学校	19名
外国語学部海外研修中国コース	7月31日(金)～8月27日(木)	28日間	吉林大学	23名
学生自治会代表团	8月3日(月)～8月5日(水)	3日間	大田大学校	学生15名 引率3名

〈海外への派遣学生数〉

	派遣先大学名	平成21(2009)年度			平成20(2008)年度まで			
		交換	短期交換	HSP*	交換	短期交換	HSP*	短期派遣
アメリカ	モンタナ州立大学	4			50			25
	モンタナ大学	1			19			
	キャロル大学	0			27			22
	ロッキーマウンテン大学							4
	インカーネットワード大学	2			23			
	アワーレディオブザレイク大学 (熊本市交流事業)				7			
カナダ	ウイスコンシン大学オークレア校				10			
	セント・メアリーズ大学	2			16			
イギリス	カールトン大学	1			8			
	リバプールジョンモーズ大学	1	3		35	4		89
フランス	アルスター大学				8			19
	リヨン商科大学				2			
ドイツ	ポワチエ大学				1			
ドイツ	ラインランド・プファルツ州立経済大学							16
オーストラリア	ラトロープ大学	3		17	17		93	
ニュージーランド	ユニテックニュージーランド大学	2	2	9	17	2	56	14
韓国	大田大学校	2			52			
中国	深圳大学	2			42			
	中国人民大学				8			
	北京外国語大学	1			7			
	北京語言大学	1			5			
	北京第二外国語学院	1			3			
中国	広西師範大学 (熊本市交流事業)				9			
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校				4			
タイ	チュラロンコーン大学	1			3			
	合計	24	5	26	373	6	149	189

※注1 網掛けの協定校は、現在交流を行っていない大学

*短期語学ホームステイプログラム

※注2 短期派遣留学(2ヶ月派遣)は平成18年度をもって終了し、短期交換留学(1学期派遣)が平成20年度開始。

INTERNATIONAL EXCHANGE PROGRAM COMMITTEE MEMBERS

国際交流委員会メンバー

	～2009. 12		2010. 1～	
国際交流委員長	中野 裕治		司馬 公周	
Chair	NAKANO, Hiroharu		SHIBA, Koshu	
商学部	小城 義也	吉永 心一	吉永 心一	波積 真理
Faculty of Commerce	KOJO, Yoshiya	YOSHINAGA, Shinichi	YOSHINAGA, Shinichi	HAZUMI, Mari
経済学部	カーク・マスデン	朴 哲 洙	金 栄 緑	浪本 浩志
Faculty of Economics	MASDEN, Kirk	PARK, Cheol Soo	KIM, Youngrok	NAMIMOTO, Hiroshi
外国語学部	筒井久美子	野田 耕司	米岡ジュリ	柴 公也
Faculty of Foreign Languages	TSUTSUI, Kumiko	NODA, Koji	YONEOKA, Judy	SHIBA, Koya
社会福祉学部	黒木 邦弘	吉津 晶子	黒木 邦弘	藤本 延啓
Faculty of Social Welfare	KUROKI, Kunihiro	YOSHIZU, Masako	KUROKI, Kunihiro	FUJIMOTO, Nobuhiro
国際交流センター事務室	西村 禮二	喜佐田智子	西村 禮二	喜佐田智子
Office of International Programs	NISHIMURA, Reiji	KISADA, Tomoko	NISHIMURA, Reiji	KISADA, Tomoko

OFFICE STAFF MEMBERS

国際交流センター事務室スタッフ

次 長	西 村 禮 二	NISHIMURA, Reiji	
(室長兼務)			
室長補佐	喜佐田 智 子	KISADA, Tomoko	
係 長	切 通 しのぶ	KIRITOSHI, Shinobu	
係 長	矢 澤 恵 子	YAZAWA, Keiko	
	大 洞 時 子	OHORA, Tokiko	
	境 亜矢子	SAKAI, Ayako	
	栗 原 隆 昭	KURIHARA, Takaaki	国際交流会館 (事務室)

OFFICE HOURS

窓口業務時間

平 日	Monday – Friday	9 : 00～12 : 30	13 : 30～17 : 00
土曜日	Saturday	9 : 00～12 : 30	

CONTACT ADDRESS

問い合わせ先

〒862-8680	Office of International Programs
熊本市大江2丁目5番1号	Kumamoto Gakuen University
熊本学園大学 国際交流センター事務室	2-5-1 Oe, Kumamoto 862-8680
TEL 096-366-3230 (直通)	TEL +81-96-366-3230
FAX 096-372-4112	FAX +81-96-372-4112

E-mail : ipkgu@kumagaku.ac.jp

U R L : <http://www.kumagaku.ac.jp/office/kokko/index.htm>



〒862-8680 熊本市大江2丁目5番1号
TEL 096-364-5161(代)
FAX 096-372-4112
[ホームページ] <http://www.kumagaku.ac.jp/>